

チーム医療リテラシー

責任者・コーディネーター	人間科学科文学分野 平林 香織 教授		
担当講座・学科(分野)	医学教育学講座、人間科学科心理学・行動科学分野、緩和医療学科、人間科学科文学分野、脳神経外科学講座、生化学講座細胞情報科学分野、神経科学講座、外国語学科英語分野、人間科学科法学分野、化学科、臨床研究・疫学研究部門、有機合成化学講座、機能生化学講座、細胞病態生物学講座、微生物薬品創薬学講座、生体防御学講座、臨床薬剤学講座、構造生物薬学講座、薬物代謝動態学講座		
担当教員	佐藤 洋一 教授、相澤 文恵 准教授、木村 祐輔 特任教授、平林 香織 教授、小笠原 邦昭 教授、石崎 明 教授、駒野 宏人 教授、藤澤 美穂 助教、工藤 裕子 准教授、廣瀬 清英 講師、東尾 浩典 講師、ジェイムズ ホップス 准教授、佐々木 亮平 特命助教、吉田 潤 助教、三浦 康宏 助教、岩渕 玲子 助教、柳谷 千枝子 助教、辻原 哲也 助教、稲垣 祥 助教、關谷 瑞樹 助教、北川 隆之 教授、西谷 直之 講師、大橋 綾子 教授、佐藤 淳也 講師、中西 真弓 教授、奈良場 博昭 准教授、毛塚 雄一郎 助教、蒲生 俊恵 助教、阪本 泰光 助教		
対象学年	3 (各学部)	区分・時間数	演習 12時間
期間	前期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、初年次での「多職種連携入門 (PBL)」での経験を踏まえ、これまでの教養教育・専門教育での知識や経験を生かして、医学・歯学・薬学の学生によるコンセンサスワークショップを通して、緩和医療について学修する。専門職連携、老年学・死生学、行動科学的視点による緩和ケア・臨床における緩和ケアに関する最新の知見を学んだ上で、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて一つの判断や結論を出すコミュニケーションワークを行うことで、痛み・老い・死などの問題に取り組むチーム医療による緩和ケア実践のポイントと他者理解の重要性を理解する。

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

専門教育途上にある学生が、他の学部学生とともに緩和医療について学び、討議することで、命を預かる医療人としての高いモラルを身につけ、今後の医療知識獲得や臨床実習実践をより一層意欲的に行う覚悟を持つ。立場の異なるメンバーの意見を傾聴し、また、自分の意見をわかりやすく説明するコンセンサスワークショップを通して、多様な価値観を尊重し、他者を畏敬する謙虚な気持ちを維持することができる。あわせて、生涯にわたって老年学・死生学を学びコミュニケーション能力をブラッシュアップするための要点をつかむ。

・到達目標（SBO）

<p>1、医学・歯学・薬学のそれぞれの立場で、緩和ケアの問題について考え、誠の医療人として何をなすべきかを見定めることができる。</p> <p>2、痛み・老い・死に対する古今東西の考え方の違い、老いへの理解、死の受容のプロセス、病における肉体的・精神的・社会的・霊的な痛みについて具体的に説明することができる。</p> <p>3、自分の価値観や判断の仕方を再認識し、他者の価値観を理解することができる。</p> <p>4、グループで意思決定する際のプロセスとグループダイナミクスについて説明することができる。</p>
--

・講義日程

（矢）大堀記念講堂

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/2	火	3	医学教育学講座	佐藤 洋一 教授	医療教育における多職種連携教育の意義と災害時医療における多職種連携の実際 （大堀記念講堂）
6/2	火	4	文学分野 臨床研究・疫学研究部門	平林 香織 教授 佐々木 亮平 特命助教	老年学・死生学入門 一宮澤賢治における妹の死の受容と誠の幸い （大堀記念講堂）
6/9	火	3	心理学・行動科学分野 緩和医療学科	相澤 文恵 准教授 木村 祐輔 特任教授	クラス1：行動科学講義（東1A） クラス2：緩和医療講義（東1C）
6/9	火	4		担当者全員	クラス1：行動科学コンセンサスワーク（東1A,東1C,西1A） クラス2：緩和医療コンセンサスワーク（西1C,西1E,西1G）
6/16	火	3	緩和医療学科 心理学・行動科学分野	木村 祐輔 特任教授 相澤 文恵 准教授	クラス1：緩和医療講義（東1A） クラス2：行動科学講義（東1C）
6/16	火	4		担当者全員	クラス1：緩和医療コンセンサスワーク（東1A,東1C,西1A） クラス2：行動科学コンセンサスワーク（西1C,西1E,西1G）
6/23	火	3		担当者全員	コンセンサスワーク発表会 （大堀記念講堂）
6/23	火	4		担当者全員	多職種連携医療の現場から一県立大船渡病院緩和医療科長村上雅彦先生をお迎えして （大堀記念講堂）

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	新版死とどう向き合うか	アルフォンス・デーケン	NHK 出版	2011
推	死ぬ瞬間—死とその過程について	エリザベス・キューブラー・ロス	中央公論社	2001
参	<古い衰えゆくこと>の社会学増補改訂版	天田城介	多賀出版	2010

・成績評価方法

講義の受講態度、ワークショップへの参加態度、レポート等により総合的に判断する。

・特記事項・その他

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット（エルモ、東芝他）	1	講義資料の提示